

吹田市版

# 声かけ見守り訓練

## 実施手引き書 【第4版】



吹田市福祉部高齢福祉室

令和6年4月

## 目次

声かけ見守り訓練実施のながれ	…………… 1
第1ステップ【訓練実施 3か月前】	…………… 4
第2ステップ【訓練実施 3か月前～1か月前】	…………… 5
訓練当日	……………11
訓練実施後	……………12

## 【声かけ見守り訓練】 実施のながれ

### 1 声かけ見守り訓練（以下、「訓練」という。）とは

吹田市認知症地域サポートの認知症高齢者徘徊搜索模擬訓練（通称：声かけ見守り訓練）は、単一自治会から小学校区までの単位で、徘徊者役の人を探して声をかける模擬訓練などを通じて「認知症になっても安心して暮らせるまち」を目指し、地域のネットワークづくりに取り組む事業です。



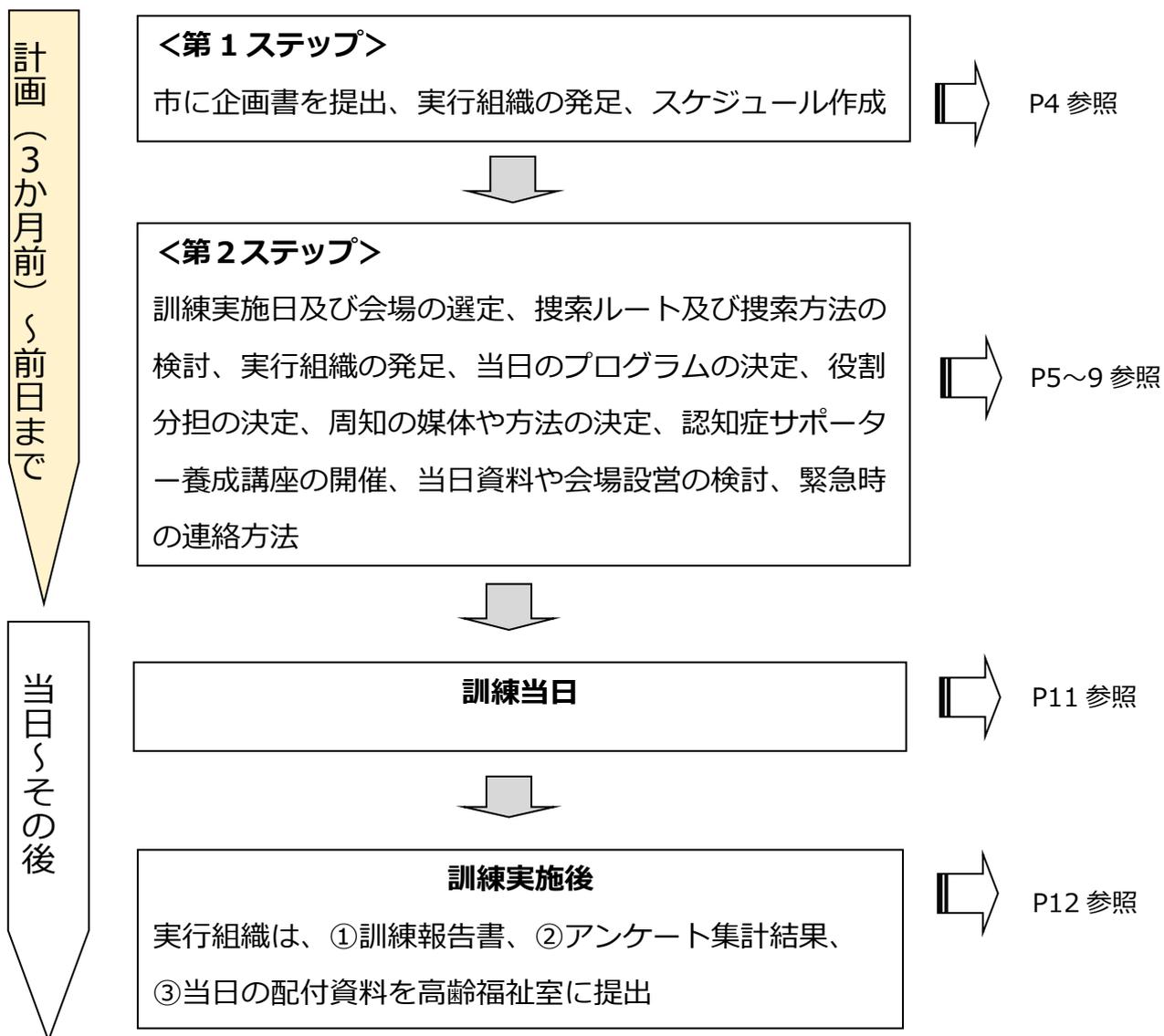
### 2 訓練の目的

- (1) 地域での見守り意識を高めることで、認知症の人とその家族を支え、認知症への理解を地域全体に広める。
- (2) 徘徊者役を通して、認知症の人の気持ちを理解するとともに、認知症の人への具体的な声かけを体験し、実践につなげる。
- (3) 地区の実情を踏まえて認知症の人やその家族が安心して暮らし続けられるような地区内のネットワークづくりを進める。

### 3 訓練の実施方法

- 訓練の実施主体は地域組織を中心として構成した実行組織です。市及び市が設置する地域包括支援センター等は、訓練等を円滑かつ効果的に実施できるよう、必要に応じて助言や調整を行います。
- 訓練実施に先立ち、認知症について理解を深め、正しい声かけの方法等を学ぶために、認知症サポーター養成講座を開催します。
- 訓練当日に参加者が訓練会場に集まり、訓練の目的や搜索の方法、搜索から発見までの流れを説明後、徘徊者役を探しに行き、発見したら「声かけ」を行います。参加者全員の声かけが終わったら、訓練会場に戻り、グループワーク等にて意見交換を行います。最後に、参加者や徘徊者役から意見や感想を発表してもらい、参加者全員で共有します。

#### 4 企画書の提出から事業終了までの流れ



- 訓練実施地区を圏域とする地域包括支援センター（以下、「地域包括支援センター」という。）と協働して、実行組織が中心になり地域で進めてください。

## 5 訓練実施のポイント

- (1) 住民の方へ認知症に対する関心をもってもらう機会とする。
- (2) 実行委員会を設置し、認知症の啓発と声かけ見守り訓練を計画的に取り組む。
- (3) 声かけ見守り訓練後の振り返りや、アンケート結果を通じて得られた意見をもとに、地域の見守りネットワークづくりに生かす。



## 第1ステップ 【訓練実施 3か月前】

訓練等の実施を希望する場合は、事前に地域包括支援センターに相談しましょう。

※ネットワークづくりの観点から、10人以上が訓練に参加することを想定して実施するのが望ましいです。

### 1 実行委員会の設置 名称決め及び企画書の作成 別冊 資料編「企画書」参照

(1) 地域の団体やグループの中から、構成員を選んで実行委員会を設置しましょう。

(例) 連合自治会 民生・児童委員 地区福祉委員 高齢クラブ 青少年対策委員会  
防犯協議会 高齢者支援事業者（介護保険事業所） など

(2) 訓練の名称を決めましょう。

・地区名や団体名など、馴染みのある名称をつけましょう。

(3) 訓練の企画書を作成しましょう。

・訓練を実施する際は企画書の作成が必要です。訓練の目的やイメージを共有し、企画書を作成し、吹田市福祉部高齢福祉室（以下、「高齢福祉室」という。）に提出しましょう。

### 2 訓練実施までの全体スケジュールの検討

実行委員会の開催場所・時間を決め、実行委員会の開催時にどのような内容を話し合うのか、おおまかな計画を立てましょう。（実行委員会の会議は、訓練実施まで3回程度が目安です）

#### 【主な検討項目】（例）

- 実施方法
- 実施日（予備日を含む）及び訓練会場の決定
- 検索ルートを選定及び検索方法、検索班の編成
- 訓練当日のプログラム
- 実行委員の役割分担
- 訓練に関するポスター・ちらしの作成、配布方法
- 訓練の地域内での啓発（広報誌などの活用）
- 認知症サポーター養成講座の開催日
- 訓練当日の資料の準備、会場の設営
- 緊急時の連絡方法 など

## 第2ステップ 【訓練実施 3か月前～1か月前】

### 1 訓練の実施日（予備日を含む）及び訓練会場を決める

（1）訓練を実施する日を決めましょう。

台風等気象警報発表時のために予備日も決めておきましょう。

（2）訓練会場（以下、「会場」という）を確保しましょう。

訓練会場は公民館等の地域内の拠点施設とし、訓練当日までの「認知症サポーター養成講座」の開催や、訓練当日の参加者等集合・解散場所となります。

### 2 訓練の検索ルートを選定及び検索方法を決める

（1）検索ルートを選定しましょう。

- 地域の人がわかりやすいルートを選びましょう。
- 会場からの往復の距離を考慮しましょう。
- 歩道の有無や交通量などを確認し、安全面に配慮しましょう。

（2）検索ルートの数を決めましょう。

- 当日の参加者数を考慮し、ルート数を決めましょう。
  - ※ ルートの数が少ないと、一人ずつ声かけする時間が確保しにくくなります。
  - ※ ルートの数が多いと、安全面の配慮や検索時に混乱を招きやすくなります。
- 1 ルートにつき、参加者 10 名までが理想です。20 名参加の場合、2 ルートを用意しましょう。（実行委員及び徘徊者役等は参加者に含みません）

（3）検索方法を決めましょう。

- 徘徊者役は決められた場所（公園や安全な場所）で待機し、検索班が来たら順番に声かけをしてもらいましょう。
- 声かけを行う人で検索班を編成し、徘徊者役を発見したら一人ずつ声かけを行いましょう。
- 徘徊者役への声掛けの誘導や、会場に戻る時間の確認などを行うため、検索班にリーダーをおくとよいでしょう。

### 3 訓練当日のプログラムを決める 別冊 資料編「①当日のスケジュール」参照

受付から開会・捜索・閉会時間など、タイムスケジュールを決めましょう。

プログラム（例）

13:00	準備
13:30	受付開始
14:00	開会 開会の挨拶・声かけ見守り訓練の説明・徘徊者役の捜索方法、 声かけの仕方【3つのない・具体的な7つのポイント】の説明など
14:30	訓練に出発 ・徘徊者役を発見したら順番に「声かけ」を行う ・全員の声かけが終わったら会場に戻る
15:30	会場にて参加者とのグループワーク等意見交換を行う ・参加者や徘徊者役及びサポート役から意見や感想を発表
15:55	閉会の挨拶・アンケート記入依頼
16:00	閉会 アンケート回収・片付け・振り返り

**訓練の規模や内容によってスケジュールの期間や順番は異なります。**

### 4 訓練当日の役割分担を決める 別冊 資料編「②役割分担表」、③「徘徊者役特徴」参照

(1) 役割分担を決めましょう。

総括者【実行委員長】・受付・司会・訓練実施方法の説明者、記録担当<sup>※1</sup>、  
救護担当<sup>※2</sup>、捜索ルートをサポートスタッフ<sup>※3</sup>などを決めましょう。

※1 訓練の様子をカメラ等で記録しましょう。

※2 救護担当がない場合、地域包括支援センターに相談しましょう。

※3 安心・安全に訓練が行えるよう、捜索ルートにキャラバン・メイトや地域包括支援センター等の関係するスタッフを1名以上配置しましょう。

(2) 徘徊者役を決めましょう。また、特徴を決めましょう。

① 徘徊者役は地域で活動している認知症サポーターに依頼しましょう。徘徊者役を

依頼できる認知症サポーターが分からない場合、地域包括支援センターに相談しましょう。

- ② 検索ルートの数に合わせて徘徊者役の人数を設定しましょう。(1 ルートに 1 人)
- ③ 徘徊者役について、仮名・当日の服装・身長・体重などの特徴を、当日の声かけを行う人に資料として配付しましょう。

## 5 訓練に関するポスター・ちらしの作成、配布方法を決める

(1) 訓練のポスター及びちらしを作成しましょう。別冊 資料編「④訓練開催ポスター・ちらし」、「⑤訓練参加申込書」参照

※ちらしは、高齢福祉室で印刷することが可能です。

部数に制限がありますので、事前にご相談ください。印刷を希望する場合は、データを高齢福祉室に提出してください。

※ポスターは日にちなどが空欄になっているものを高齢福祉室から配付することが可能ですので、希望する場合は高齢福祉室にご連絡ください。

(2) ポスターとちらしの必要枚数及び配布方法を決めましょう。

- ① ポスターは地域の掲示板やマンションの掲示板などに掲示することを想定し、必要枚数を決めましょう。
- ② ちらしの配布方法を検討し、必要枚数を決めましょう。(地域の回覧板の活用や高齢クラブでの集まり、敬老会や市民体育祭など地域イベントでの配布など)

## 6 訓練を地域内で啓発する方法を決める

- 必要に応じて、「福祉だより」など、地域で発行しているものに訓練の実施について記事を書かせてもらいましょう。
- 必要に応じて、地域の高齢者見守り活動協力事業者への案内を行いましょう。  
※協力事業者は吹田市ホームページに掲載しています。
- 必要に応じて、訓練の日程が決まれば、吹田警察署（生活安全課）や吹田市消防本部へ協力依頼を行いましょう。

## 7 認知症サポーター養成講座を開催する 別冊 資料編「⑥認知症サポーター養成講座案内ちらし」参照

地域の団体等参加者を対象に認知症サポーター養成講座を開催しましょう。認知症サポーター養成講座では、認知症について理解を深め、認知症の方への正しい声かけの方法等を学びます。

認知症サポーターが増えることで、認知症について正しく理解する仲間が増え、認知症の方やその家族が安心して暮らせるまちづくりにつながります。

※認知症サポーター養成講座の開催は、地域包括支援センターへ開催依頼の提出が必要です。

※地域包括支援センターが講座の講師となる認知症キャラバン・メイトを派遣します。

## 8 訓練当日の資料の準備及び会場設営を検討する

(1) 参加者及び実行委員やスタッフを含めた人数分の資料を準備しましょう。

訓練に関する資料

資料名	準備方法
プログラム	資料の作成・印刷は実行委員会で行います。印刷が難しい場合は予算の範囲内であれば必要に応じて市が行います。
徘徊者役の特徴（用意できれば）	
徘徊ルート的地図（用意できれば）	
声かけの仕方【3つのない・具体的な7つのポイント】	地域包括支援センターで用意しますので、必要部数を伝えましょう。
アンケート	
認知症ケアパスや吹田市の認知症支援に関する取組ちらし等	
その他、実行委員会が必要と判断したちらし	

※上記資料は訓練実施前（1週間前を目途に）準備しましょう。

- (2) 参加者及び実行委員やスタッフの受付名簿を作成しましょう。
- (3) 参加者及び実行委員やスタッフ用の机・椅子、必要に応じてパソコン・プロジェクター・マイク等の物品を用意しましょう。
- (4) のぼり【認知症になっても安心して暮らせるまち吹田をみんなで】を立てましょう。  
※地域包括支援センターが用意します。
- (5) 実行委員や参加者がわかる目印を着用しましょう。  
※オレンジリングや認知症サポーターカードを活用してもよいでしょう。  
※実行委員やスタッフ用のオレンジのビブスを市から借し出すことも可能です。
- (6) 参加者の水分補給について  
※本人持参（この場合、ちらしに記載が必要）または実行委員会で用意するか決めておきましょう。
- (7) 会場内の部屋の確保について  
※必要に応じて、実行委員や徘徊者役の控え室及び救護室を用意しましょう。

## 9 緊急時の連絡方法

- いつの時点の気象警報で中止の判断をするかを決めておき、ポスターやちらしにも中止の判断の基準等について記載しましょう。
- 訓練実施が延期となった場合  
実行委員長→実行委員→参加者やスタッフの順に連絡しましょう。  
会場玄関にて張り紙等で周知しましょう。
- 万が一の事故に備え、実施会場に救急物品を用意しましょう。また、AEDの設置場所や使用方法の確認を事前に行いましょう。
- 捜索中の事故の場合
  - ① 捜索班のリーダーから実行委員長へ連絡。捜索班リーダーの判断にて救急車を要請。
  - ② 実行委員長は救護班に現場急行の指示を行いましょう。
  - ③ 事故が発生した場合、実行委員長は高齢福祉室へ速やか（事故発生から3日以内を目安）に報告を行いましょう。

※この事業は「吹田市市民活動災害補償制度」の対象となっており、市が一括して保険加入しているため、状況により傷害保険を適用します。なお、事故発生時から 30 日以内に保険会社に事故報告に関する書類を提出する必要がありますので速やかに報告してください。

- ④ その他の事故対応については、臨機応変に対応しましょう。

## 1 会場の設営・必要物品の搬入・資料の準備（訓練開始の1時間前）

実行委員長から当日の流れや安全面への注意事項などの最終確認を行いましょう。

## 2 受付（訓練開始の30分前）

## 3 訓練 開会

- ・実行委員長より開会の挨拶を行いましょう。
- ・オリエンテーションでは参加者に対し、記録保存のための写真撮影や音声の録音について了承を得ましょう。
- ・徘徊者役は訓練が始まる直前に、搜索場所にて待機してもらいましょう。
- ・搜索班は決められたルートを通り、徘徊者役を探しに行きましょう。
- ・徘徊者役を見つけたら、一人ずつ声かけをしましょう。
- ・全員の声かけが終わったら、徘徊者役と一緒に会場に戻りましょう。
- ・会場に戻ってきたら、参加者全員の点呼を行いましょう。
- ・訓練をとおしての気付き等についてグループワークを行い、参加者や徘徊者役、スタッフから意見や感想を発表してもらいましょう。

## 4 訓練 閉会

- ・搜索班のリーダーは、参加者全員の点呼を行いましょう。
- ・事故の報告などないか確認しましょう。
- ・アンケートの記入を呼びかけ、アンケートを提出してもらいましょう。
- ・実行委員長より、閉会の挨拶を行ってから解散しましょう。

## 5 会場の片付け

- ・実行委員と徘徊者役及びスタッフが集まり、訓練の振り返りを行いましょう。
- ・会場の片付けやアンケートの整理を行いましょう。

## 訓練実施後

### 1 アンケートの集計 **別冊 資料編「アンケート集計結果入力シート」参照**

訓練の内容やアンケート結果を地域内で共有することで、地域で考えるきっかけになりますので、共有する場があるか検討してみましょう。

### 2 訓練実施報告書の提出 **別冊 資料編「実施報告書」参照**

訓練終了後、1か月以内に、①訓練実施報告書、②アンケート集計結果入力シート、③当日の配付資料を高齢福祉室に提出しましょう。

### その他

- 訓練終了後に地域内で実施報告やアンケート集計結果を共有するなどし、「認知症になっても安心して暮らせるまち」を目指した、地域の見守りネットワークづくりに生かしてください。
- 市が実施する事業において、声かけ見守り訓練の実施報告の協力をお願いする場合があります。

吹田市認知症地域サポート  
認知症高齢者徘徊搜索模擬訓練

## **声かけ見守り訓練**実施手引き書

作成：吹田市認知症地域支援推進員

問合せ先：吹田市福祉部高齢福祉室

TEL 06-6384-1375 FAX 06-6368-7348